神様は光で人間の心を見通される

人間の中には互いに別な二つの存在, 一つは神の性向でもう一つは魔鬼の性向の人です

‘自身を知り, 相手を知ってこそその争いに勝つことが出来る’ と言う, 中国のソンム先生のお話がある。それは, きわめて正確なお話です。即ち, 自身を知り, 魔鬼を知ってこそ魔鬼に勝つことが出来るということです。

人間の中には二種類の人がいる。一つは神の性向の人, 神の人で, もう一つは魔鬼の性向の人,魔鬼の人である。

「私と言う意識」でこの道を行こうとする心を持っている人は, 絶対にこの永生の道を行くことが出来ない。この道を「私という意識」が歩もうとする心を持っている人は, その人は絶対にこの永生の道を歩むことも出来ず, 「私という意識」は魔鬼なので, 絶対成就されることもなく, また, 天国も行くことが出来ず, 永生を得ることも出来ない。自分が魔鬼の性向の人なのか, 神の性向の人なのかを分別して知る為には, 心をよく見れば分かる, 自分が狡くていつも二重性格の心が動くなら, その人は魔鬼の性向の人である。正直ではなく表裏不同の人は魔鬼の人が中心になって生きるからそうなのである。自ら自分を誤魔化す生活をする人も, やはり魔鬼の人が中心になって生活するから, 自ら自分を誤魔化すのである。だから, 魔鬼の人がこの道を行こうと思うなら, いち早く心を入れかえて, 神の人が行くことが出来るように努力しなければならない。魔鬼の人のまま, この道を行こうとすればそれは無駄な骨折りである。魔鬼の人のまま祭壇を通って達成する為に, 祭壇を熱心に出る人が居る。そのような人は, 絶対に救われない。しかし, 神の人はいつも犠牲的な心が心の低に下敷きになっているので, 自分も知らずに犠牲的な生活を習慣的に行なうようになって居る。

魔鬼を誤魔化してこそ魔鬼に勝つことが出来る

どうして私がこのようによく分かるかと言えば, 救い主は完全な人だからである。救い主は知らないことがないぐらい知っている。皆さんが魔鬼の人なら, 救い主を誤魔化そうとしても救い主は騙されるふりをするだけで騙されることはない。騙されるふりをするだけです。魔鬼を誤魔化せば魔鬼に勝つことが出来るし, 魔鬼を殺し無くすことが出来る。

魔鬼を誤魔化すことが出来なければ絶対に魔鬼を滅ぼすことが出来ない。だから, 私が魔鬼をうまく誤魔化したから勝利者になった。

魔鬼を誤魔化すことが出来なければ絶対に勝利者になることが出来ない。

皆さん, 救い主が外観では馬鹿のように見えても魔鬼の人と神の人が分別出来ないでしょうか?

全てが出来る。だから, 神の人にだけ甘露を注いで上げるが, 魔鬼の人には絶対注いで上げない。魔鬼の人に注いで上げればその人が死んでしまう。魔鬼を殺して無くす甘露であるから死んでしまうのである。だから, 魔鬼の人には注いで上げず神の人にだけ甘露を注いで上げる。分りますか?

神の分別が上手であってこそ勝利者になることが出来る

皆さん, 私は神の分別が上手だったから勝利者になったことで, 神の分別が上手ではなかったら勝利者になることは出来なかった。人に会う時も, この人が魔鬼の人なのか, 神に属している人なのかを分別して接触するべきで, それを分別もせずに接触しては, 反って魔鬼に飲みこまれてしまう。私は若い頃から魔鬼を分別して知っていた。23歳の時, 濟州島訓練所の訓練兵時代に泥棒を捕らえた。盗む現場を見ては居なかったが, 泥棒の霊の臭いをかいで捕らえた。

だから, 中隊長は曺熙聖と言う人が鬼でもないのに, どうしてそれが分かるのだろうかと気にしたが, 決して秘密は教えなかった。それを教えてあげると神様が離れてしまう。常に魔鬼を誤魔化すべきで, 正直に話しては魔鬼に負けるようになっている。だから, 最後まで誤魔化したのてす。

二十三歳の時, 私は, 誰が何の罪を犯かしているのかを分別出来った。信仰村の時から, 毎日夜明けの礼拝をした。

私が, 霊母様の獄中発令を受けて, ‘溫陽祭壇’に行ったら聖徒は三人しか居なかった。その三人を連れ伝道を始めた。聖徒達に毎日夜明けの礼拝をさせた。毎日夜明けの礼拝をすると毎日礼拝をすることになったのです。毎日礼拝をしろとダニエル書12章に書かれている。

「毎日行なう燔祭を閉じるなら滅亡するだろう」 だから私は ‘伝道かん’ の時から毎日夜明けの礼拝をしたのです。

‘素砂信仰村’ に住んでいる時は ‘五万祭壇’で夜明けの礼拝をし ‘溫陽祭壇’ の伝道師だった時は, 毎日夜明けの礼拝をしたのです。

‘溫陽祭壇’ の全聖徒, 三人は患者だった。その患者さんが恩恵を受けてきれいに治ったので, 心に火が付いて一人ずつ熱心に伝道して來た。それが六人になり, 十二人になり, 二十四人になった。このようにして, 約三ヵ月で三百人が集まることになった。これは, ‘伝道かん’ の歴史に起こった始めての出来事であった ‘伝道かん’ の伝道師の時代にも露の恩恵を降ろしたことばかりではなく, ‘伝道かん’ の歴史上, 伝道師が礼拝を導く時に露が降りたことも, ‘溫陽祭壇’ だけのことであった。‘溫陽祭壇’ に集まった三百人が, 心に火が付いて, 礼拝の時手を打つ音が, 溫陽市内を響き渡るくらいだから, ‘溫陽’ に住んでいた人びとがすべて集まって來た。そこで, 私は信仰復興伝道集会を開催したのです。当時霊母様は獄中に居られました。私が ‘ユ·ゼザン伝道師’ を復興講師として迎えて信仰復興伝道集会を開いた時, 賛美歌は私が導いて, 説教は ‘ユ·ゼザン伝道師’ がするように計画した。

ところが, ‘ユ·ゼザン伝道師’ が説教する時は聖徒達の半分以上が居眠りをした. しかし, 私が賛美歌を導く時は, 大変気持よく賛美歌を歌ったのである, ‘ユ·ゼザン伝道師’ がそれを見て説教する気がなくなり, 私に “賛美歌を導き続けて下さい。曺伝道師が賛美歌を導く時は家族達は気持よく歌ったのに私が説教すれば, こっくり, こっくり居眠りをするので私はどのように説教すればよいのか?” と言ったのです。当時, ‘溫陽祭壇’ で甘露の恩恵が降りるといううわさが天安などの所まで流れていて, この人達すべてが ‘溫陽祭壇’ に礼拝をしに來た。当時, ‘天安祭壇’ の崔伝道師が私をとても憎み, 彼が協会の ‘ソン·ウダン幹事’ のところに行って私を別な所に発令するように頼んだのです。

しかし, 私は霊母様が直接発令された人なので, 協会幹事が勝手に別な所へ発令することが, 出来なかったのです。私は霊母様が釈放される時にも ‘伝道かん’ の伝道師200名が集まった中で私が代表として祈りと礼拝を導いたりした。なぜなら私が礼拝を導くと恩恵を受けるからです。伝道師達は恩恵を受けられることを知っていたはずですね, だから伝道師達は私が好きだったです。

私の友達の中で, 統一教の文牧師と言う人が居る。その人も, 私が礼拝を導いたら, 恩恵を受けるので恩恵者であることを知って勝利祭壇が自分達の反対する宗教なのに私に会っただけで心が嬉しく気持がよいので, たまに訪ねて來た。

だから, みなさんは私が勝利者になった事実を正確に知らなければならないのです。私はいつも正直に話す癖がある。

神様を思慕しても真心で思慕したただ中途半端に思慕したことはない。

神様の玉座が搖れ動く程度に私は神様を思慕したのです。私は大きな恩恵を受けたから, 私が聖徒の席に座って礼拝をしても恩恵滄波になるのです。

そして, その祭壇全体が恩恵滄波になるのです。私が, 恩恵を引っ張る力が強かったから, 私の周囲の人達までも私の恩恵を受けたのです。皆さんも神の人である良心の人が神様を高度に思慕し, 真心で神様によく仕えながら神様の為に全てを捧げて動く時に恩恵を受ける。

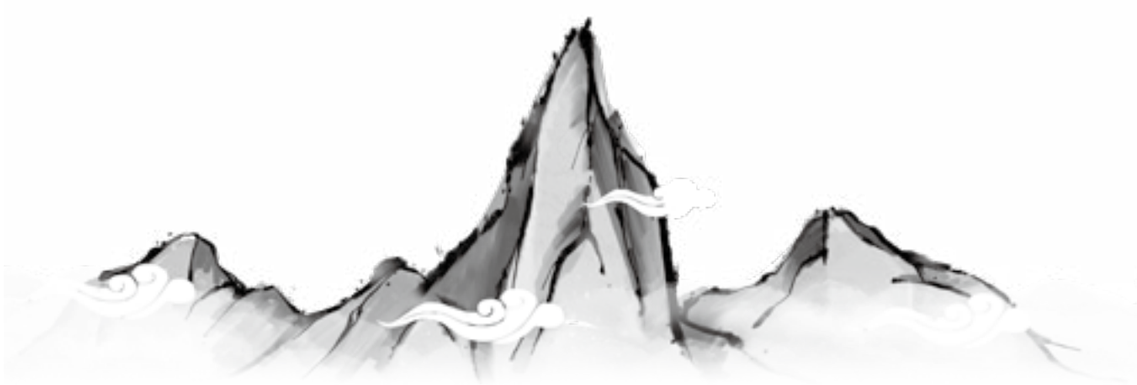
神様に吝嗇にならず, 神様に捧げることもないのに捧げるふりだけして生活をする人は, 絶対に恩恵を受けることなど出来ないのです。神様はそのように愚かではないのです。神様は光の神様であると聖書に書かれているように, 神様が光を放つので皆さんの心を全て見通すのです。

격암유록 新 해설
수정판 제 26회

지혜있는 자는 살고 무지한 자는 죽으리라

聖山尋路 성산심로

聖山水泉藥之又藥 성산수천약지우약
一飮延壽飮之又飮 일음연수음지우음
不死永生 불사영생
聖泉何在南鮮平川 성천하재남선평천
紫霞島中萬姓有處 자하도중만성유처
福地桃源仁富尋 복지도원인부심
入山雖好不如西湖 입산수호불여서호
東山雖良不如路邊 동산수량불여로변
多人往來大之邊 다인왕래대지변
天藏地秘吉星照 천장지비길성조
桂樹範朴之上 계수범박지상
蘇萊老姑兩山相望稀坐山
소래노고양산상망희좌산



성산의 샘물은 약 중의 묘약이라 한번 마시면 목숨이 늘어나고 마시고 또 마시면 불사영생하리라. 성산의 샘물은 어디에 있는가? 남조선(대한민국) 부평 부천 인천 사이에 있느니라. 그곳은 신선이 노니는 보랏빛 노을이 감도는 반도의 가운데에 있으며 온갖 성(姓)바지들이 모인 복된 땅이니라. 인천 부평 부천 사이에 있으며 예로부터 복사골로 알려진 곳이니 그곳을 찾아가면 성산의 샘물을 찾으리라.

입산하는 것이 비록 좋다하나 서호(西湖)를 찾는 것보다 못하고 동산(東山)이 비록 좋으나 길가보다는 못하니 많은 사람이 왕래하는 대로변에 있는 복사골 소사로 찾아와야 하리라.

하늘이 감추고 땅이 숨긴 길한 별이 비추는 소사의 계수 범박 위쪽에 소래산과 노고산이 희한하게 마주보고 있도다.

石白石光輝 석백석광휘
天下列光見而夜到 천하렬광견이야도
千艘百萬旗 頃刻岸到 천소백만기 경각안도
三都用庫安閑之日 삼도용고안한지일
天日月再生人 천일월재생인
人人得地不死永生 인인득지불사영생
鄭堪豫言 有智者生 정감예언 유지자생
無知者死 무지자사
貧者生富者死 빈자생부자사
是亦眞理矣 시역진리의

돌인즉 백석(소사)이요 소사에 계신 마귀(사망)를 이기신 하나님의 빛이 온 세상에 찬란하게 빛나니 그 빛을 보려고 하룻밤에 수천 척의 배가 수백만 개의 깃발을 펄럭이며 순식간에 해안에 도달하리라.

삼도(화성, 한양, 송경) 즉 수원, 서울, 개성의 창고마다 세계 각국에서 싣고 온 금은보화가 넘치나니 편안하고 한가로운 세월을 보내게 되리라.

천지일월의 기운을 받아 다시 사람으로 오신 그분(정도령)은 사람마다 십승지를 얻어 불사영생하게 하리라.

정감선사가 예언하기를 지혜 있는 자는 살 것이요 지혜 없는 자는 죽으리라. 마음을 비운 자는 살 것이요 욕심(물욕, 음욕 등)이 가득한 자는 죽으리니 이 또한 진리이니라.

寺畓七斗 사답칠두

寺畓七斗斗中之星 사답칠두두중지성
曲土辰寸眞寶之農 곡토진촌진보지농
文武星名地 문무성명지
民何知天牛耕田 민하지천우경전
水源長遠無凶之豊 수원장원무흉지풍
食者永生 三豊之穀 식자영생 삼풍지곡
虛妄之說 世人難知 허망지설 세인난지
有智者飽無智飢 유지자포무지기
人人心覺 天上之穀 인인심각 천상지곡
晝夜不息勤農作業 주야불식근농작업
一日三食飢餓死 일일삼식기아사
三旬九食不飢生 삼순구식불기생
天下萬物呼吸之者 천하만물호흡지자
行住坐臥天呼歲歲 행주좌와천호세세

절 논은 일곱 마지기요 즉 하늘 농사는 북두칠성이 짓는다는 말이다.

북두칠성 중의 별이 하늘의 참된 농사를 지으니 바로 문무성이니라.

곡토진촌(曲土辰寸)은 농사(農寺)의 파자.

땅의 백성들이 어찌 알리요. 하늘 소(정도령)가 마음 밭을 가는데 생명수의 근원이 길고 멀지만 흉년이 없이 풍년만 드니 먹는 자는 영생을 얻느니라. 삼풍지곡(三豊之穀)을 먹으면 영생한다는 것을 허망한 말로만 여기는데 세상 사람들은 알기 어려우리라.

지혜로운 자는 배불리 먹지만 무지한 자는 굶주릴 수밖에 없으니 사람들이여, 하늘의 곡식을 부디 마음에 깊이 깨달을 지어다. 밤낮을 쉬지 않고 부지런히 하늘 농사를 지어라.

세상 곡식은 하루 세 끼를 먹어도 마지막에는 굶어 죽고 하늘 곡식은 한 달에 아홉 끼만 먹어도 굶주리지 않고 영생을 얻으리라. 천하 만물의 영장으로서 숨 쉬는 자는 행주좌와(行住坐臥)에 항상 기쁘고 감사한 마음으로 하나님을 세세토록 불러야 하느니라.*

박명하 /고서연구가
myunghpark23@naver.com
010-3912-5953

당신을 영생의 세계로 안내하는 신문

성금계좌 : 우체국 103747-02-134421 예금주 : 이승우

승리신문은 독자님들의 정성어린 성금으로 만들어집니다
전국 각지에서 성금을 보내주신 분께 감사드립니다

승리신문 1990.3.3 등록번호 다 - 0029

발행인 겸 편집인 김종만

본지는 구세주(정도령, 미륵불)께서 말씀하신 사람몸이 실제로 죽지않는 원리(영생학)를 누구든지 쉽게 배우고 실천할 수 있도록 소개하여 질병과 죽음이 없는 개벽된 세상을 만들고 진정한 평화의 세계를 구현하는데 기여함을 목적으로 발행됩니다.

경기도 부천시 소사구 안곡로 205번길 37
우 14679
홈페이지 www.victor.or.kr

광고 및 구독신청
전화 032) 343-9985
FAX 032) 349-0202

본지는 신문윤리강령 및 그 실천요강을 준수합니다.